

「ベトナム・ハノイ校サマースクール 参加報告書」

京都大学農学部3年 後藤千佳

①学習成果、留学について

海外渡航は今回が初めてであった。以前何度か留学を検討したことがあったが、準備や諸手続きの煩雑さ、海外滞在に対する根拠のない不安などから放棄していた。しかし今回2週間の海外滞在を経て、手続きの面では苦勞することが多かったものの、海外滞在への不安は大幅に軽減されたように感じている。身の安全など注意しなければならない事柄については引き続き注意しつつ、これを機に、留学に限らず積極的に海外へ出ることを考えるようになった。

②海外での経験

文化的背景の異なる人(今回は「ベトナム人」と書く)に対するとき、「ベトナム人」に対する「(「ベトナム人」ではない存在としての)日本人」を殊更に意識して振舞ってしまうことに気付いた。以降ベトナムで出会った学生さんたちと話すときは、「ベトナム人」として応えることを強要しないように、彼らの声を聴くように努めた。できていたとは限らないが、少なくとも自覚したことは重要であった。

また、現地では班からはぐれて頻繁に迷惑をかけていたので、集団行動の際はまず集団についていくことを心掛けるようにしたい。

③プログラム内容

メインはベトナム語学習、講義への参加・聴講、共同発表であった。ベトナム語学習については、現地での講義だけでなく、渡航前にもベトナム語教室を開いていただいた。とくに、渡航前にベトナム語の基本的なあいさつや数字を練習したことが、現地の様々な場面において役に立った。講義については、ULISにおいては日本語学習授業への参加、USSHにおいては日本またはベトナム関連講義の受講がメインであった。共同発表については、ULIS, USSH, 京都大からバランスよく分担して、円滑に行うことができたように思う。自身の学習や発表準備で忙しかったであろう時期にもかかわらず、課外時間にも及んで親切にサポートしていただいたサポーターの方々や先生方にはほんとうに感謝している。

④進路への影響

海外への抵抗が軽減したことで、将来海外で働くことをより現実的な選択肢の一つとして視野に入れるようになった。